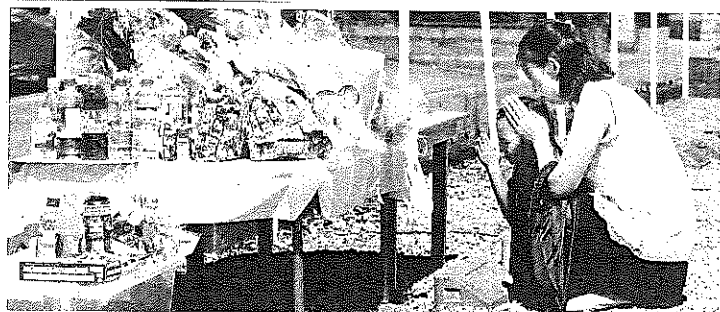


# 園バスの悲劇 忘れない

## 放置死1年現場で追悼



静岡県牧之原市の認定こども園「川崎幼稚園」で、園児の河本千奈ちゃん(当時3歳)が通園バスの車内に置き去りにされ、熱射病で死亡した事件から5日で1年となった。バスが止められていた園の駐車場には献花台が設けられ、花束などを手にした人たちが次々と追悼に訪れた。

さいたま市浦和区の男性(49)は、将来の夢が「プリンセス」だった千奈ちゃんのために、プリンセスの塗り絵とクレヨンを供えた。事件当時、めいが千奈ちゃんと同じ3歳で「ニュースをみて心が壊れそうになった。風化させないために来年も来たい」と目を赤くしていた。

愛知県知立市の大矢好延さん(70)は、月命日のたびに片道2時間半かけて訪れているといい、「バスの中で、どれだけつらかったことか」と花束を手向けた。8歳の娘がいるという静岡県島田市の女性(47)はジュースを供え、「園には大切な命を奪った責任の重さを感じてほしい」と話した。

千奈ちゃんは昨年9月5日、バス車内に約5時間取り残された。この日の牧之原市の最高気温は30.5度で、県警が同じバスで行った検証では、車内の温度は45度を超えた。県警は昨年12月、バスを運転していた

園の駐車場に設けられた献花台の前で手を合わせる人たち(5日午後、静岡県牧之原市で)

増田立義前理事長(74)ら4人を業務上過失致死容疑で静岡地検に書類送検した。

### 安全装置の設置 年内に全国調査

#### 少子化相検討

こども家庭庁は5日、幼稚園や認定こども園などの送迎バスに設置が義務づけられている、園児らの置き去りを防ぐ安全装置の整備状況について、年内の全国調査を検討していることを

明らかにした。

小倉少子化相が同日の閣議後の記者会見で「年末までに整備状況の調査を検討している」と語った。最新の設置率について、集計や公表をしている自治体は一部にとどまるとみられ、実態を明らかにする考えだ。

静岡県牧之原市で起きた3歳女児の置き去り死事件を受け、国は4月に設置を義務化。今年度中は経過期間で、6月時点の設置率は55.1%だった。